

授 業 科 目 名	現代教育と教育理念(The Ideal and The Real of Education)		
科 目 番 号	9200111	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	1 年次
実 施 学 期	春 C	曜 時 限	木曜・1、2 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	人文・応理・エシス・比文・日日・社工対象		
担 当 教 員 (連 絡 先)	平井悠介		
オ フ ィ ス ア ワ ー	火 4 (授 業 に 関 す る こ と で あ れ ば 適 宜 対 応 。 授 業 時 に 配 布 す る レ ジ ュ メ に 記 載 す る メール ア ド レ ス 宛 に 連 絡 し 、 ア ポ イ ン ト を 取 っ て 下 さ い 。)		
授 業 の 到 達 目 標	(1) 教育の諸概念と教育の理念・目的についての基礎的な知識を習得する。 (2) 人間形成をめぐる教育の各分野での議論が相互にいかに関連しているかを説明できる。 (3) 人間の発達の助成としての教育の可能性と限界について現代社会との関わりという観点をふまえて論じられる。		
授 業 の 概 要	子どもが人として生まれ、人間として形成されていく過程で、大人・教育者はどのようなはたらきかけを行うべきか。また、社会は社会的存在としての人間の形成にどのように関わるべきか。こうした課題を、人間の発達、教育の目的、内容、方法、制度的・組織的原理等に関わる教育の基礎理論・基本的概念をふまえながら、多面的に考察する。		
授 業 計 画	<p>第 1 回 教育という問い、その意義について:教育学を学ぶ意義についての理解 【準備学習】教科書の第 1 章と第 14 章を読んでおく。</p> <p>第 2 回 教育の概念:教育とは何か、教育の場(家庭・学校・社会)による役割の違いの理解 【準備学習】教科書第 2 章を読み、「教育」という言葉に対する自らのイメージを 100 字程度でまとめておく。</p> <p>第 3 回 教育の理念と目的(1):発達の助成/市民の育成としての二つの教育目的の理解 【準備学習】教科書第 4 章を読んだ上で、なぜ大人は子どもを教育するのか、教育の目的について自らの考えを 200 字程度でまとめておく。</p> <p>第 4 回 教育の理念と目的(2):教育のあるべき姿とその実現に向けた課題についての考察 【準備学習】教科書第 3 章と第 11 章を読んでおく。その上で、学習指導要領について基礎知識を調べておく。(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm 参照)</p> <p>第 5 回 人間形成論としての教育人間学:教育的関係、発達の連続性/非連続性の理解 【準備学習】教科書第 5 章を読んでおく。</p> <p>第 6 回 教育思想に見る人間形成(1):ルソー、ペスタロッチの問題意識の理解 【準備学習】教科書第 7 章を読み、ルソーとペスタロッチについて基礎知識を調べておく。</p> <p>第 7 回 教育思想に見る人間形成(2):フレーベル、ヘルバルト、デューイの問題意識の理解 【準備学習】教科書第 7 章と第 8 章を読んだ上で、フレーベル、ヘルバルト、デューイについての基礎知識を調べておく。</p> <p>第 8 回 現代教育を問い直す教育思想:近代教育批判とその乗り越えの思想史的考察 【準備学習】教科書第 10 章を読んでおく。</p> <p>第 9 回 公教育としての学校教育:教育の制度・組織の意義についての理解 【準備学習】教科書第 12 章を読んでおく。</p> <p>第 10 回 現代社会と教育のゆくえ:現代教育の課題の考察 【準備学習】第 11 章と第 15 章を読んでおく。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験(60%)、毎回の受講態度およびリアクションペーパーの内容(40%)		

テキスト	吉田武男監修、滝沢和彦編著、『MINERVS 初めて学ぶ教職 1 教育学原論』ミネルヴァ書房、2018年。授業時に資料を含むレジュメを配布する。
参考文献	授業時に適宜紹介する。
授業外における学習方法	事前学習、事後学習を含め、150分の授業外における学修を要する。 毎時間、授業計画に示された準備学習(指定教科書の指定された章を読む等)を行った上で、授業に臨むこと。
受講学生に望むこと	・教科書の内容を前提としながら、発展的な内容を授業で講義します。それゆえ、シラバスで次回の内容を確認し準備学習を行った上で、授業に臨むこと。 ・自らが教育を受けてきた経験を振り返り、時に他者と共有しながら、教育のあるべき姿を考えていきます。目的意識と積極性を持って授業に臨んでいただきたい。
備考	旧課程の教育基礎学Ⅱに対応。 対象学群・学類以外の履修は原則認めない。また、『履修要覧』(I学修-5履修申請)で履修申請変更について書かれているとおり、「やむを得ない理由があって、期間内に申請不可能な場合」を除き、追加履修・削除等は基本的には認めないため、履修登録は慎重に行うこと。

授 業 科 目 名	現代教育と教育理念(The Ideal and The Real of Education)		
科 目 番 号	9200121	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	1 年次
実 施 学 期	秋 C	曜 時 限	水曜・1、2 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	生物・地球・数学・物理・化学・創成・医学・看護・医療・芸術対象		
担 当 教 員 (連 絡 先)	平井 悠介		
オ フィ ス ア ワ ー	火 4 (授 業 に 関 す る こ と で あ れ ば 適 宜 対 応 。 授 業 時 に 配 布 す る レ ジ ュ メ に 記 載 す る メールアドレス宛に連絡し、アポイントを取って下さい。)		
授 業 の 到 達 目 標	(1) 教育の諸概念と教育の理念・目的についての基礎的な知識を習得する。 (2) 人間形成をめぐる教育の各分野での議論が相互にいかに関連しているかを説明できる。 (3) 人間の発達の助成としての教育の可能性と限界について現代社会との関わりという観点をふまえて論じられる。		
授 業 の 概 要	子どもが人として生まれ、人間として形成されていく過程で、大人・教育者はどのようなはたらきかけを行うべきか。また、社会は社会的存在としての人間の形成にどのように関わるべきか。こうした課題を、人間の発達、教育の目的、内容、方法、制度的・組織的原理等に関わる教育の基礎理論・基本的概念をふまえながら、多面的に考察する。		
授 業 計 画	<p>第 1 回 教育という問い、その意義について:教育学を学ぶ意義についての理解 【準備学習】教科書の第 1 章と第 14 章を読んでおく。</p> <p>第 2 回 教育の概念:教育とは何か、教育の場(家庭・学校・社会)による役割の違いの理解 【準備学習】教科書第 2 章を読み、「教育」という言葉に対する自らのイメージを 100 字程度でまとめておく。</p> <p>第 3 回 教育の理念と目的(1):発達の助成/市民の育成としての二つの教育目的の理解 【準備学習】教科書第 4 章を読んだ上で、なぜ大人は子どもを教育するのか、教育の目的について自らの考えを 200 字程度でまとめておく。</p> <p>第 4 回 教育の理念と目的(2):教育のあるべき姿とその実現に向けた課題についての考察 【準備学習】教科書第 3 章と第 11 章を読んでおく。その上で、学習指導要領について基礎知識を調べておく。(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm 参照)</p> <p>第 5 回 人間形成論としての教育人間学:教育的関係、発達の連続性/非連続性の理解 【準備学習】教科書第 5 章を読んでおく。</p> <p>第 6 回 教育思想に見る人間形成(1):ルソー、ペスタロッチの問題意識の理解 【準備学習】教科書第 7 章を読み、ルソーとペスタロッチについて基礎知識を調べておく。</p> <p>第 7 回 教育思想に見る人間形成(2):フレーベル、ヘルバルト、デューイの問題意識の理解 【準備学習】教科書第 7 章と第 8 章を読んだ上で、フレーベル、ヘルバルト、デューイについての基礎知識を調べておく。</p> <p>第 8 回 現代教育を問い直す教育思想:近代教育批判とその乗り越えの思想的考察 【準備学習】教科書第 10 章を読んでおく。</p> <p>第 9 回 公教育としての学校教育:教育の制度・組織の意義についての理解 【準備学習】教科書第 12 章を読んでおく。</p> <p>第 10 回 現代社会と教育のゆくえ:現代教育の課題の考察 【準備学習】第 11 章と第 15 章を読んでおく。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験(60%)、毎回の受講態度およびリアクションペーパーの内容(40%)		

テキスト	吉田武男監修、滝沢和彦編著、『MINERVS 初めて学ぶ教職 1 教育学原論』ミネルヴァ書房、2018年。授業時に資料を含むレジュメを配布する。
参考文献	授業時に適宜紹介する。
授業外における学習方法	事前学習、事後学習を含め、150分の授業外における学修を要する。 毎時間、授業計画に示された準備学習(指定教科書の指定された章を読む等)を行った上で、授業に臨むこと。
受講学生に望むこと	・教科書の内容を前提としながら、発展的な内容を授業で講義します。それゆえ、シラバスで次回の内容を確認し準備学習を行った上で、授業に臨むこと。 ・自らが教育を受けてきた経験を振り返り、時に他者と共有しながら、教育のあるべき姿を考えていきます。目的意識と積極性を持って授業に臨んでいただきたい。
備考	旧課程の教育基礎学Ⅱに対応。 対象学群・学類以外の履修は原則認めない。また、『履修要覧』(I学修-5履修申請)で履修申請変更について書かれているとおり、「やむを得ない理由があって、期間内に申請不可能な場合」を除き、追加履修・削除等は基本的には認めないため、履修登録は慎重に行うこと。

授 業 科 目 名	現代教育と教育理念(The Ideal and The Real of Education)		
科 目 番 号	9200131	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	1 年次
実 施 学 期	春 C	曜 時 限	月曜・3、4 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	教育・心理・障害・知識・社会・国際・資源・情報対象		
担当教員(連絡先)	平井 悠介		
オフィスアワー	火 4 (授業に関することであれば適宜対応。授業時に配布するレジュメに記載するメールアドレス宛に連絡し、アポイントを取って下さい。)		
授業の到達目標	<p>(1) 教育の諸概念と教育の理念・目的についての基礎的な知識を習得する。</p> <p>(2) 人間形成をめぐる教育の各分野での議論が相互にいかに関連しているかを説明できる。</p> <p>(3) 人間の発達への助成としての教育の可能性と限界について現代社会との関わりという観点をふまえて論じられる。</p>		
授業の概要	<p>子どもが人として生まれ、人間として形成されていく過程で、大人・教育者はどのようなはたらきかけを行うべきか。また、社会は社会的存在としての人間の形成にどのように関わるべきか。こうした課題を、人間の発達、教育の目的、内容、方法、制度的・組織的原理等に関わる教育の基礎理論・基本的概念をふまえながら、多面的に考察する。</p>		
授 業 計 画	<p>第 1 回 教育という問い、その意義について:教育学を学ぶ意義についての理解 【準備学習】教科書の第 1 章と第 14 章を読んでおく。</p> <p>第 2 回 教育の概念:教育とは何か、教育の場(家庭・学校・社会)による役割の違いの理解 【準備学習】教科書第 2 章を読み、「教育」という言葉に対する自らのイメージを 100 字程度でまとめておく。</p> <p>第 3 回 教育の理念と目的(1):発達の助成/市民の育成としての二つの教育目的の理解 【準備学習】教科書第 4 章を読んだ上で、なぜ大人は子どもを教育するのか、教育の目的について自らの考えを 200 字程度でまとめておく。</p> <p>第 4 回 教育の理念と目的(2):教育のあるべき姿とその実現に向けた課題についての考察 【準備学習】教科書第 3 章と第 11 章を読んでおく。その上で、学習指導要領について基礎知識を調べておく。(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm 参照)</p> <p>第 5 回 人間形成論としての教育人間学:教育的関係、発達の連続性/非連続性の理解 【準備学習】教科書第 5 章を読んでおく。</p> <p>第 6 回 教育思想に見る人間形成(1):ルソー、ペスタロッチの問題意識の理解 【準備学習】教科書第 7 章を読み、ルソーとペスタロッチについて基礎知識を調べておく。</p> <p>第 7 回 教育思想に見る人間形成(2):フレーベル、ヘルバルト、デューイの問題意識の理解 【準備学習】教科書第 7 章と第 8 章を読んだ上で、フレーベル、ヘルバルト、デューイについての基礎知識を調べておく。</p> <p>第 8 回 現代教育を問い直す教育思想:近代教育批判とその乗り越えの思想的考察 【準備学習】教科書第 10 章を読んでおく。</p> <p>第 9 回 公教育としての学校教育:教育の制度・組織の意義についての理解 【準備学習】教科書第 12 章を読んでおく。</p> <p>第 10 回 現代社会と教育のゆくえ:現代教育の課題の考察 【準備学習】第 11 章と第 15 章を読んでおく。</p>		
成績評価方法	期末試験(60%)、毎回の受講態度およびリアクションペーパーの内容(40%)		

テキスト	吉田武男監修、滝沢和彦編著、『MINERVS 初めて学ぶ教職 1 教育学原論』ミネルヴァ書房、2018年。授業時に資料を含むレジュメを配布する。
参考文献	授業時に適宜紹介する。
授業外における学習方法	事前学習、事後学習を含め、150分の授業外における学修を要する。 毎時間、授業計画に示された準備学習(指定教科書の指定された章を読む等)を行った上で、授業に臨むこと。
受講学生に望むこと	・教科書の内容を前提としながら、発展的な内容を授業で講義します。それゆえ、シラバスで次回の内容を確認し準備学習を行った上で、授業に臨むこと。 ・自らが教育を受けてきた経験を振り返り、時に他者と共有しながら、教育のあるべき姿を考えていきます。目的意識と積極性を持って授業に臨んでいただきたい。
備考	旧課程の教育基礎学Ⅱに対応。対象学群・学類以外の履修は原則認めない。 対象学群・学類以外の履修は原則認めない。また、『履修要覧』(I学修—5履修申請)で履修申請変更について書かれているとおり、「やむを得ない理由があって、期間内に申請不可能な場合」を除き、追加履修・削除等は基本的には認めないため、履修登録は慎重に行うこと。

授 業 科 目 名	現代教育と教育理念(The Ideal and The Real of Education)		
科 目 番 号	9200141	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	1 年次
実 施 学 期	通年	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類	体育 1～5 クラス対象		
担 当 教 員 (連 絡 先)	平井 悠介		
オ フ ィ ス ア ワ ー	火 4 (授 業 に 関 す る こ と で あ れ ば 適 宜 対 応 。 授 業 時 に 配 布 す る レ ジ ュ メ に 記 載 す る メールアドレス宛に連絡し、アポイントを取って下さい。)		
授 業 の 到 達 目 標	(1) 教育の諸概念と教育の理念・目的についての基礎的な知識を習得する。 (2) 人間形成をめぐる教育の各分野での議論が相互にいかに関連しているかを説明できる。 (3) 人間の発達の助成としての教育の可能性と限界について現代社会との関わりという観点をふまえて論じられる。		
授 業 の 概 要	子どもが人として生まれ、人間として形成されていく過程で、大人・教育者はどのようなはたらきかけを行うべきか。また、社会は社会的存在としての人間の形成にどのように関わるべきか。こうした課題を、人間の発達、教育の目的、内容、方法、制度的・組織的原理等に関わる教育の基礎理論・基本的概念をふまえながら、多面的に考察する。		
授 業 計 画	<p>第 1 回 教育という問い、その意義について:教育学を学ぶ意義についての理解 【準備学習】教科書の第 1 章と第 14 章を読んでおく。</p> <p>第 2 回 教育の概念:教育とは何か、教育の場(家庭・学校・社会)による役割の違いの理解 【準備学習】教科書第 2 章を読み、「教育」という言葉に対する自らのイメージを 100 字程度でまとめておく。</p> <p>第 3 回 教育の理念と目的(1):発達の助成/市民の育成としての二つの教育目的の理解 【準備学習】教科書第 4 章を読んだ上で、なぜ大人は子どもを教育するのか、教育の目的について自らの考えを 200 字程度でまとめておく。</p> <p>第 4 回 教育の理念と目的(2):教育のあるべき姿とその実現に向けた課題についての考察 【準備学習】教科書第 3 章と第 11 章を読んでおく。その上で、学習指導要領について基礎知識を調べておく。(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm 参照)</p> <p>第 5 回 人間形成論としての教育人間学:教育的関係、発達の連続性/非連続性の理解 【準備学習】教科書第 5 章を読んでおく。</p> <p>第 6 回 教育思想に見る人間形成(1):ルソー、ペスタロッチの問題意識の理解 【準備学習】教科書第 7 章を読み、ルソーとペスタロッチについて基礎知識を調べておく。</p> <p>第 7 回 教育思想に見る人間形成(2):フレーベル、ヘルバルト、デューイの問題意識の理解 【準備学習】教科書第 7 章と第 8 章を読んだ上で、フレーベル、ヘルバルト、デューイについての基礎知識を調べておく。</p> <p>第 8 回 現代教育を問い直す教育思想:近代教育批判とその乗り越えの思想的考察 【準備学習】教科書第 10 章を読んでおく。</p> <p>第 9 回 公教育としての学校教育:教育の制度・組織の意義についての理解 【準備学習】教科書第 12 章を読んでおく。</p> <p>第 10 回 現代社会と教育のゆくえ:現代教育の課題の考察 【準備学習】第 11 章と第 15 章を読んでおく。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験(60%)、毎回の受講態度およびリアクションペーパーの内容(40%)		

テキスト	吉田武男監修、滝沢和彦編著、『MINERVS 初めて学ぶ教職 1 教育学原論』ミネルヴァ書房、2018年。授業時に資料を含むレジュメを配布する。
参考文献	授業時に適宜紹介する。
授業外における学習方法	事前学習、事後学習を含め、150分の授業外における学修を要する。 毎時間、授業計画に示された準備学習(指定教科書の指定された章を読む等)を行った上で、授業に臨むこと。
受講学生に望むこと	・教科書の内容を前提としながら、発展的な内容を授業で講義します。それゆえ、シラバスで次回の内容を確認し準備学習を行った上で、授業に臨むこと。 ・自らが教育を受けてきた経験を振り返り、時に他者と共有しながら、教育のあるべき姿を考えていきます。目的意識と積極性を持って授業に臨んでいただきたい。
備考	旧課程の教育基礎学Ⅱに対応。 対象学群・学類以外の履修は原則認めない。また、『履修要覧』(I学修-5履修申請)で履修申請変更について書かれているとおり、「やむを得ない理由があって、期間内に申請不可能な場合」を除き、追加履修・削除等は基本的には認めないため、履修登録は慎重に行うこと。

授 業 科 目 名	現代教育と教育理念(The Ideal and The Real of Education)		
科 目 番 号	9200151	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	1 年次
実 施 学 期	通年	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類	体育 6～10 クラス対象		
担 当 教 員 (連 絡 先)	平井 悠介		
オ フ ィ ス ア ワ ー	火 4 (授 業 に 関 す る こ と で あ れ ば 適 宜 対 応 。 授 業 時 に 配 布 す る レ ジ ュ メ に 記 載 す る メールアドレス宛に連絡し、アポイントを取って下さい。)		
授 業 の 到 達 目 標	(1) 教育の諸概念と教育の理念・目的についての基礎的な知識を習得する。 (2) 人間形成をめぐる教育の各分野での議論が相互にいかに関連しているかを説明できる。 (3) 人間の発達の助成としての教育の可能性と限界について現代社会との関わりという観点をふまえて論じられる。		
授 業 の 概 要	子どもが人として生まれ、人間として形成されていく過程で、大人・教育者はどのようなはたらきかけを行うべきか。また、社会は社会的存在としての人間の形成にどのように関わるべきか。こうした課題を、人間の発達、教育の目的、内容、方法、制度的・組織的原理等に関わる教育の基礎理論・基本的概念をふまえながら、多面的に考察する。		
授 業 計 画	<p>第 1 回 教育という問い、その意義について:教育学を学ぶ意義についての理解 【準備学習】教科書の第 1 章と第 14 章を読んでおく。</p> <p>第 2 回 教育の概念:教育とは何か、教育の場(家庭・学校・社会)による役割の違いの理解 【準備学習】教科書第 2 章を読み、「教育」という言葉に対する自らのイメージを 100 字程度でまとめておく。</p> <p>第 3 回 教育の理念と目的(1):発達の助成/市民の育成としての二つの教育目的の理解 【準備学習】教科書第 4 章を読んだ上で、なぜ大人は子どもを教育するのか、教育の目的について自らの考えを 200 字程度でまとめておく。</p> <p>第 4 回 教育の理念と目的(2):教育のあるべき姿とその実現に向けた課題についての考察 【準備学習】教科書第 3 章と第 11 章を読んでおく。その上で、学習指導要領について基礎知識を調べておく。(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm 参照)</p> <p>第 5 回 人間形成論としての教育人間学:教育的関係、発達の連続性/非連続性の理解 【準備学習】教科書第 5 章を読んでおく。</p> <p>第 6 回 教育思想に見る人間形成(1):ルソー、ペスタロッチの問題意識の理解 【準備学習】教科書第 7 章を読み、ルソーとペスタロッチについて基礎知識を調べておく。</p> <p>第 7 回 教育思想に見る人間形成(2):フレーベル、ヘルバルト、デューイの問題意識の理解 【準備学習】教科書第 7 章と第 8 章を読んだ上で、フレーベル、ヘルバルト、デューイについての基礎知識を調べておく。</p> <p>第 8 回 現代教育を問い直す教育思想:近代教育批判とその乗り越えの思想的考察 【準備学習】教科書第 10 章を読んでおく。</p> <p>第 9 回 公教育としての学校教育:教育の制度・組織の意義についての理解 【準備学習】教科書第 12 章を読んでおく。</p> <p>第 10 回 現代社会と教育のゆくえ:現代教育の課題の考察 【準備学習】第 11 章と第 15 章を読んでおく。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験(60%)、毎回の受講態度およびリアクションペーパーの内容(40%)		

テキスト	吉田武男監修、滝沢和彦編著、『MINERVS 初めて学ぶ教職 1 教育学原論』ミネルヴァ書房、2018年。授業時に資料を含むレジュメを配布する。
参考文献	授業時に適宜紹介する。
授業外における学習方法	事前学習、事後学習を含め、150分の授業外における学修を要する。 毎時間、授業計画に示された準備学習(指定教科書の指定された章を読む等)を行った上で、授業に臨むこと。
受講学生に望むこと	・教科書の内容を前提としながら、発展的な内容を授業で講義します。それゆえ、シラバスで次回の内容を確認し準備学習を行った上で、授業に臨むこと。 ・自らが教育を受けてきた経験を振り返り、時に他者と共有しながら、教育のあるべき姿を考えていきます。目的意識と積極性を持って授業に臨んでいただきたい。
備考	旧課程の教育基礎学Ⅱに対応。 対象学群・学類以外の履修は原則認めない。また、『履修要覧』(I学修-5履修申請)で履修申請変更について書かれているとおり、「やむを得ない理由があって、期間内に申請不可能な場合」を除き、追加履修・削除等は基本的には認めないため、履修登録は慎重に行うこと。